

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名

里の家

日付 平成 20年 2月5日
特定非営利活動法人

評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 介護支援専門員経験5年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

入所して間もないAさんは時々外へ出たくなる。「散歩に行ってくる」と言うと、ベスト着て出て行ってしまふ。「天気良いね」職員が笑顔で付いて行く。ホームは田園風景広がる閑静な住宅地の中にある。「こんにちは」畑作業をしている人が声を掛けてくれる。「今度は八幡さんの方へ行ってみようか」職員とお喋りしながら歩く内にAさんはだんだん元気になっていく。「よく歩けるね」「子供の頃、家出して井原から福山まで歩いた事もある」昔話も出てくる。洋風の家、白壁の蔵がある和風の家、咲き誇る山茶花、たわわに実る柿の木、あれこれ指差しながら話すAさんはとても楽しそうだ。八幡さんのお堂は長い石段の上にあった。「昨日も来たから、今は階段はこらえて貰おう」階段の下から拝んで「さあ帰ろう」Aさんは先頭に立ってホームを目指す。恵まれた自然環境の中、丁寧な個別対応がAさんの心を優しく解きほぐしている。ホームの利用者9人中4人が男性利用者だ。「ここへ来たなら、何でも皆と一緒にせんとなあ」「出来る事は皆と一緒にするのが自分の役目じゃ」彼らは口々にそう語り、女性陣より働き者だ。洗濯物を取り入れると自分から手伝おうと来てくれる。職員達もそんな男性陣を頼りにしている。Bさんの横にすり鉢持って来て「すりゴマ頼める？」職員が聞く。「ええけど、わし今熱を測っとるで」「あらま」他の職員が「味見してみて」Bさんと女性利用者Cさんに頼む。一口食べてBさんは「ええんじゃないか」と言ってくれた。Cさんに聞くと「今、食べとる」食べ終わるのを待って「味如何だった？」と聞くと、Cさんはすました顔をして「忘れた」と答えて皆で大笑い。職員と利用者のやり取りは自然で気兼ねがない。昼食の握り寿司を少し遅れて職員達も食べ始める。「食べねえ、食べねえ」寿司の入った大皿を職員の前に並べて皆が勧める。職員が利用者には、昼の目薬をさそうとすると「目薬はええから先に食べんちゃい」あちこちから労わりの言葉が出てくる。デザートのみかんを一個綺麗に薄皮も取って「開けたから、あげよ」向いの席の人に差し出す女性もいる。利用者達と職員達のそれぞれがとても仲が良い。「明るく楽しくみんな仲良く、自分も楽しく1日1回笑いたい」と職員は言い、「ここで暮らして良かったなあと思って欲しい」と代表者は語る。みんなの気持ちがひとつになって、実に居心地の良いホームが生まれている。

特に改善の余地があると思われる点

食事を利用者の楽しみにしたいとの言葉を聞いた。ホームの畑で収穫する新鮮野菜もある。美味しい物を食べる事は人生の楽しみでもあり、波及効果も大きい。料理自慢の職員もいるので、食事の献立や調理について管理する専門の人を当て、ケアに重点をおくのも良いかも知れない。今後検討してみたい。

2. 評価結果(詳細)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：理念は掲示して、職員や利用者・家族に見れるようにしている。現在は、その理念を具体的に表現する事を考えていけば良いので、改善項目はあげていない。</p> <p>2、全体的に見て…：利用者一人ひとりの個性を尊重しながら、家事や趣味等「生活感」のある穏やかでゆったりした普通の暮らしを提供する事を理念として掲げ、家族と共に利用者を支え、地域社会に貢献していきたいと考えている。利用者のペースを大切に敬意を持って接し、よく話を聞き、受け入れ見守るよう職員に伝えている。「利用者をそのまま受け入れ、地域の人も交流しながら共に楽しく過ごせるように、ここで暮らして良かったなあと思えるホームを目指したい」代表者の心強い言葉も聞いた。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：生活空間は改善するところはない。外部も申し分ない環境にあり、庭は一つずつ改良を加えている。現在の施設や建物も利用者はしっかりと活用している。</p> <p>2、全体的に見て…：広い敷地を活かし芝生や木のテーブル・椅子を配し、あじさい・バラ・秋にはコスモスと季節の花が周囲を彩り、洒落た英国風庭園のようだ。訪問時には季節外れの桜の花が咲いていた。直ぐ裏のホームの畑には、キャベツ・ネギ・大根・白菜・ブロッコリー・ほうれん草等様々な野菜を植えてホームの食材として活用している。利用者達は庭でフォークダンスをしたり、草木への水遣りを楽しみ、畑では草取りや収穫をして土と触れ合い、田畑や家々横の小道を散歩して自然を感じている。恵まれた環境の中にある。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人のできることに配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：評価項目全般に亘って現在実施中であり、その内容の改良をして全体の質の向上につなげている最中である。ケアマネジメント全体が段々定着しつつあるので、当面はこのまま改良し質の向上をしていけば良いと考える。</p> <p>2、全体的に見て…：音楽に合わせてラジオ体操を皆でする。出来る人はのびのび大きく手を回し、出来ぬ人は片手だけ上げ下げする。出来る事を出来るようにして無理はしない。体操がすんだら「はい！ぐるーっと回って」食卓周囲を皆で回って歩行訓練をする。所々に牛乳パックを利用して作った枕木風障害物の台を置き、足をあげまたいで歩く。職員も利用者も区別なく皆でぐるぐる、結構楽しい。日常的な散歩や家事の手伝い、恒例の干支のくみ絵の色紙作り等の手作業、自慢の習字や俳句作り等の趣味活動等にも取り組み、楽しみながらリハビリ出来るよう工夫をしている。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
記述回答	<p>1、自主評価について…：これから人材の育成や新しい人材の登用等、現状に於ける改良は続けていこうとしている。新しい事をするより、現状の改良に力点を置いて行ってもらいたいと思う。</p> <p>2、全体的に見て…：代表者は親族の介護を通じて認知症の現実と直面し、グループホーム設立に踏み切った。1年目は無我夢中、2年目になってやっと和やかさと生き生きとした感じが出て来た。代表者は控えめに語るが、どのホームでも課題とする家族や地域との交流を、2年目にしてこなしているのは特筆に値する。代表者が地元出身である事に加えて、開設時より地域との交流や家族との関係に重点を置いたホームの姿勢が成果を上げている。家族会を作って情報交換をしたり、ホームの便りを地域や家族に送って理解を深める等の努力の結果である。</p>		